

10年先はどんなでしょうか。今度は旧師達も「変ってはいないな」とはおっしゃいますまい！
これから先の空間を思うと少々怖くはありますけれど、それに大分疲れてはいますけれど、それでも
行かなければいけないのでしょね。煩悩りはせず、身体を大事にして、やっぱり元気に笑って
クラス会を迎えたいと思ったことでした。

ミセス先生

阪尾由美子

今春の卒業生に招かれ、高尾山～相模湖へとぬけて楽しいダベリングし、帰り着くと速達便です。
何事ならんと思えば「日々の活躍の中から原稿を」とのこと。締切まで5日間とはさてどうしたも
のか……こういう会誌の運営の大変さはよく解るので、協力の気持を形に表すのも大切か……など思
っていると翌朝の新聞に「ミセス先生」。いわく、「勤続十年前後油のりきった所で育児のため
にやめていく……等々」ピタリ同じ悩みです。私の場合やがて五つになる娘を市の保育所に安心し
てお願いしているので、恵まれている方ですが、それでも帰宅してからは雲がわくような雑事の連
続、さし迫った調べ物で夜を徹することもありますし。その一方では生徒の若い魅力にとりつかれ
ている私でもあり、丁度高校入試問題が連日紙面を賑わしクローズアップされているので、このひ
ずんだ制度の中で生きる中学生とのつき合いを二、三メモしようと思いたちました。

よく父母から子供がとても反抗的だとかハレモノにさわるような訴えを聞きます。実は成長の一
面ですが急に親から離れていくやりきれなさもあるでしょう。新入生の頃はビーチクパーチク母親
に甘える様にまといつくあどけなさも、卒業時にはヒゲでも生える気味悪さ。中学三年間は心身の
激動期です。朝「お早う」といって見渡す50人はその顔の様に生活体験が違います。集団指導と
その中の個人指導と……つくづくむづかしい年頃だなあーと実感します。＝父親とぶつかって面
白くなくオヤジの世話になるもんかと、新聞配達してかせぐ意地っ張りがいました。学校でも何か
とかゝわってはあばれるのもめ事が多い子です。あるべき事のあと4、5人を呼んだら親分格の
彼、「ほくもでしよう」「君は呼ばないわよ」「どうしてさ」「君には折にふれ云い尽してきたも
の」「……」「見込みないからアキラメタンダア」と片目つぶってみせたら、山嵐みたいのがす
ごく淋しい顔をします。自制力の少い現代っ子じみた直線的行動とウラハラに悪い事も知り、叱っ
てもらいたい純粋さがあり憎めません。逆手に出ることも必要で、親がとかく気嫌を伺う様に扱
うとなおさら荒れたりするようです。別れの日「先生生きててよ！」といったっけ。念願の訓練所で
自動車整備をしています。『いたずらするから一番前さ』とその辺も相変らずです。＝彼女。
何度目の家出だろうか。又して私の魔の第二金曜日になった……いつも生理前なのです。複雑な家

庭の真相を本人は知らないが肌でかぎわけている様子。頭は空っぽだが、男眼を引く言動。この子
の場合は教育相談や専門医の暖かい手で脳波の異常も発見され、心身とも多方面の支えによっ
て一人立ちしました。

「男女の交際」よく討議の題材になります。異性への関心がないといったら嘘でしょう。それが
変に照れたり反発したり表現にもなる年令。例えば一時間思いきりのドッジボールなどすると、
「失礼／＼」といって男子が遠慮会釈なく女子にぶついたりする中から親近感や当り前の会話がで
きますし、仕事は男女グループですと自然に協力の姿になるし、来学期はだれと組むかナーとほの
かなお目当てに胸がうづいたりする様です。半大人の彼ら — 理屈は半分解りかけ行動力は二倍もあ
るアンバランスを秘め — にいつも私は「友だち」の大切さを話します。事実仲間意識が強く事の
善悪より大人に対する自衛で団結するほどですが、まだ自我や個性を認めて付き合いに至らない。
その未熟さもやがて生涯の友さえ得る時期なのですから、よく中学校はよかったといわれる時「今
頃になって／＼」といいながら、「それはナンセンスの面白さでしょ」とつけ加えます。つまり種々
様々の友だちがありバカげた事のある良さ。仲々社会ではむき出しては付き合えません。こうい
った各個人生活が土台にあつての学習ですから、今の教育制度にはポッカリ穴が空いている様です。
まるで規格品の製造になっていないでしょうかと訴えたいのです。

さて最後に「ミス先生」は？決して肩ひじ張らぬ事ですね。女がヒステリックになってはと意
識してあまり怒らぬ方ですが、ある時すごく雷を落しましたら、彼ら驚ろいて一週間しょげて反省
したようです。先生の気迫と思つた由で、時には感情をぶつけることも人間らしさだと痛感です。帰
宅したら学校ののがの字も忘れて、草花を楽しみ果実酒に熱を入れ、長休みはおろか堂々と休暇をも
らって旅に出るという暮しもどこかで人間臭く役立つ様です。そして忙しさにまぎれナリフリ
かまわずは絶対禁物。「先生今日のセーターかっこいいね」「一段とお若い」なんて一年坊主でも
云います。もっとも三年生なら「たゞしセーターがね」と加えるに違いありませんが一年生だから
「ごまするナァ」なんてお互いが人をサカナに騒ぐ位です。若く美しく — という彼らの期待から
程遠い私も、彼らの成長に魅せられ腹立たしさもクロッと忘れて奮戦という事でしょうか。また楽
しからずや。

高校地理教育談話会編「地理資料」について

小池とみ子

「そこらに生えている草や灌木は、あまり濃くはないが、一応緑色をしている。枯れたのもある
が、多年生のはまさしく緑草である。だが、これにマッチで火をつけると、パチパチ音をたて